



「多層的支援」の視点を取り入れた授業づくり

～玉野市立第二日比小学校の取組～

本県では、子どものつまずきを想定し、適切な支援を行う「**多層的支援**」の視点を取り入れた授業づくりを研究しています。今号では、多層的支援の概要と玉野市立第二日比小学校の実践を紹介します。

背景

小学校算数における正答率40%以下の児童の割合が全国値よりも高い。

II

学習内容につまずいている子どもの割合が高い。



「令和5・6・7年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要」から

多層的支援とは

「全員に同じ支援」ではなく、一人一人の状況に合わせて多層的に指導・支援する仕組み。

第1層支援＝全体への指導・支援

学校・学級全体を対象としたユニバーサルな支援

第2層支援＝一部への指導・支援

配慮が必要な一部の児童生徒に対する支援

第3層支援＝個別への指導・支援

特別な支援を必要とする個人に対する個別的支援

例

学習の見通しを持たせる、既習事項の活用、課題の明確化 など

例

机間指導、児童生徒の交流の確保、使う道具や方法を選択させる など

例

具体物や図、写真を使う、学びの状態に応じて段階的に関わる など

第二日比小学校による取組

第1層支援

課題を自分事にする場面

- ・学習問題をイメージしやすいように、具体物を示したり、問題把握場面の動画を見せたりするなど、視覚化する。
- ・本時で何を解決するのか、課題を明確化する。
- ・本時で使える既習事項や見方・考え方に児童が気づけるようにする。



第2層支援

個人思考の場面

- ・クラウド上に「**既習BOX**」(1～6年までの学習内容をまとめたもの)を作成し、児童がいつでも自ら確認できるようにする。
- ・話し合いの形態を工夫し(ペア、グループ、全体)、自ら選択した相手と協働して課題解決に向かうことができるようにする。



第3層支援

各場面での個別支援

- ・問題場面を言葉だけでなく、絵や図に表しながら説明する。
- ・手指や「数図ブロック」、「かぞえ棒」などを使っても良いことを伝える。
- ・数字の読み方や書き方を書いたカードや、課題解決しやすいワークシートを準備しておく。

全体への指導・支援をすると共に、児童が必要となる支援を自己選択できるようにしています。



校長先生より

授業において、「個に応じた多層的支援」を意図的かつ組織的に行うことで、自ら課題解決に取り組もうとする子どもの姿が増えてきています。

また、先生方は、これまで授業の中で何気なく行ってきた支援を、多層的支援の視点から意識的に捉え直すことで、**子どもの学びを見取り、指導に生かす力**を着実に高めてきています。

この手立ては第2層支援として適切だったか。



校内研修の様子

大山裕之 校長

注目!

多層的支援に取り組む学校の公開授業が、12月3日(水)に日比小学校及び第二日比小学校で、11月19日(水)に勝央北小学校で、それぞれあります(案内通知済み)。どうぞご参加ください。

